

[アンケート一覧の作成にあたって]

- アンケートは、武庫川とその流域における環境保全とまちづくりに関する課題や参考事例について、地域の方々や関係者が感じておられること、体験されていることなどの情報を得るために行ったものです。
- 一覧としてまとめるため、記述を簡潔にしていますが、原本の内容を歪めるものではありません。また、特定の個人や組織の不利益になる固有名詞や名称は表現を変えております。

整理番号	WGの別	意見の要点	対象事例または対象場所	要望事項	備考
1	環境	沿岸の廃棄物による水質障害の可能性	惣川(上水道取水地点下流) 大多田川(土木廃棄物) 本川(武庫川上流浄化センター下流部、金属製造事業所の処分場)	関係部局のウォッチが必要	
2	環境	採石場の環境問題	篠山市天神川流域の採石場 西宮市大多田川流域の採石場 宝塚市惣川流域の採石場 (他にあるかどうかは不明)	・降雨時の土砂流出、濁りの発生。沈殿地の整備。 ・降雨時の土砂流出による下流の土砂災害。調整池の整備。	
3	環境 まち	近自然工法の評価	藍本付近の河川整備工事	親水公園、自然観察等に期待、意欲的な取り組みを要望	
4	環境	潮止め堰の機能が時代に合わない。改変の要。	潮止め堰(河口から2.5km)	転倒堰の操作変更により自然の汽水域が保持できる。 尼崎・西宮両市、周辺住民との話し合いで解決	
5	まち	まちづくり、人づくり、環境づくり、防災づくりなど総合施設の建設	尼崎市内・県立動物愛護センター南となりを候補地	「ふれあい川の駅」新設。(施設の具体的な構想あり)	
6	環境 まち	農薬不使用、合成洗剤の追放	農業従事者、一般市民	合鴨農法、ペーパーマルチ農法等の推進啓蒙、関係協議会等への働きかけ	
7	環境	中流域自然環境の保全	武田尾の自然景観	・ハードな整備計画で渓谷美を破壊しないこと ・市民のレクリエーション、憩いの場として積極的に保全	
8	環境	潮止め堰の撤去	下流域の潮止め堰	工業用水の取水なし、土砂の堆積、武庫川の自然の流れの回復が必要。	
9	環境	災害復旧のあり方	リバーサイド住宅地	住宅地老朽化と堤防建設に問題。 全戸移転と跡地の自然化。	

10	環境	河川埋立による道路拡幅に問題	生瀬地区と国道176号線(大多田川合流地点から下流へ約300m、右岸20m埋立、リバーサイド住宅地の真下)。	住宅地の真下に埋立を行うのは無謀。青葉台住宅地に洪水が起こる可能性。関電変電所を移転し、JR側を拡幅することが考えられる。	
11	環境	各種の河川水質問題	・下水処理場の経由なし(農薬、タイヤの摩耗、洗車洗剤やワックス) ・下水処理場を経由(洗剤と富栄養化、環境ホルモン) ・ごみの不法投棄		
12	環境	河川工作物と生物問題	・三面張り、二面張りの護岸工事による生物の減少(子供が遊びたがらない) ダム放流量減少による魚類生息環境の変化。		
13	環境まち	自然の景観と護岸工事の不調和	リバーサイド住宅地に計画中の堤防		
14	環境	・道路の拡幅と川幅の縮小 ・河川域に見られる建築物の問題	・西宝橋付近の国道176号線の拡幅工事の計画 ・西宝橋付近の建築物および施設等		
15	環境まち	護岸工事の見直し	尼崎～武田尾下流端区間の未着工部分が、従来工法による護岸工事と堤防という計画になっている点。	・川の生物と景観から見て工法がそぐわない。過去に計画にこだわらなくていい。 ・行政と地元および地元以外の住民を交えて川づくりの公開検討会を開く。 ・リバーサイドは全戸移転とし、跡地を遊水池にする。	
16	環境まち	CO2削減による異常気象発生予防と水害予防	省エネとゴミ減量によるCO2削減	・省エネの例としてLED照明の適正化 ・ゴミ減量の例として会議資料紙の無駄を省く	
17	環境	川の水質浄化	農薬・合成洗剤の使用や護岸工事の影響で川の微生物が減り、ヘドロが増加。	EM菌の培養液をプール、トイレ等の洗浄に使用。川の水質浄化にも有用。NPO北摂EM研究会の実例あり。	
18	環境	既設ダムの治水対策への活用	流域4ダムのうち青野ダム以外は治水機能を持っていないので、それを活用。	水量調節や嵩上げにより治水機能を持たせる。新ダム建設より環境負荷が小さい。	
19	環境	流域内の流路網の把握	水環境の論議の基盤として必要	流域各市の水路関係管理担当部局の調査資料や利水権者の聞き取り調査。	

20		(委員会出席時の感想のみ)			
21	環境	安全を重視した総合治水の推進	総合治水関連項目についてのマップ化・図表化の必要性。情報開示の重要性。住民の治水事業への参画。行政の分かり易い資料の提供。	総合治水関連項目として下記が考えられる。 ・集水域の水生・水際生物の調査、保存、増殖 ・保水力、水源涵養、森林の防災機能、 ・大規模開発の規制、抑制 ・堤防の改修・強化と河道改修整備(特に阪神電鉄武庫川橋梁部分) ・ハザードマップの作成と好評 ・自然景観の保全、復元、管理 ・武庫川自然環境案内センターの設置	
22	まち	・鮎が棲み、ほたるが飛ぶ武庫川、自然の残る公園 ・リバーサイド問題	リバーサイドの問題:45戸を移転、あと嵩上げ	・全戸移転とし、巨額の嵩上げ費用があるなら自然の市民公園にする。この公園づくりにワークチームを構成。	
23	まち	リバーサイド問題	リバーサイドの問題:約半数戸移転、あとパラペット積み上げ	・全戸移転とし、川幅を広げるのでなく空き家とパラペット等の構造物の撤去のみとする。	
24	環境 まち	自然環境保全と川を活かしたまちづくり	・藍本地区の多自然型床止め工法(二枚貝の保護) ・丹波市氷上町の河川公園(さくら公園) ・同 中学校沿いの教育ビオトープ	・多自然型築堤は教育(総合学習)の場として活用。原風景保全を含め、利用のための施設、解説板、モニュメント等を設置。 ・県、市、地域、学校が一体となった利用管理維持の方策が必要。	
25	環境 まち	川辺生活を楽しまたい	生瀬橋付近	人工的な整備でなくビオトープ的整備をしてほしい	
26	環境 まち	山林のもつ保水力の重要性が大切	三田を例として	もともと自然が持っていた保水力を失わせた原因、と解決	
27	環境	維持用水、環境用水の検討。農業用水の転用検討 H.6年の異常少雨時のデータ検証。全利用者のデータ把握			
28	まち	リバーサイド住宅地の移転	リバーサイド住宅地	移転し跡地を川遊びの公園として整備	

29	まち	遊休農地を遊水地として利用	遊休農地	農林水産部と協調して遊休農地を氾濫原(遊水地)として活用	
30	環境 まち	リバーサイド住宅地全戸移転、跡地を遊水池に 潮止め堰の必要性検討 砂州対策		1. 貴重種の試験移植結果報告 緑のダム構想検討 ダム建設の環境影響評価 2. 各種団体のネットワーク化と拠点化、法人化 流域のハザードマップづくり 河川、高水敷の利用法 3. 流域の開発規制 洪水危険、水位情報通報システム等	
31	まち	人の交流の場としての川	日出坂水辺に親しむ会川の持つ文化、生命について学び、遊び、憩い、(子供から老若男女が)集う場の整備		
32	環境	上流から下流まで自然に水が流れてこそ「川」である。 ダム建設は不要			
33	まち 環境	集中豪雨時の地下トンネル貯留や礫貯留 武庫川本流に負担をかけない為支流で工夫をする			
34	まち	高水敷の利用 歴史資産の活用	河川空間を公園、運動場、大規模災害時の緊急避難場所として利用 歴史的資産・景観を生かした川づくり	歴史資産の残る場所を公園化する。旧渡しの跡を「矢切の渡し」のような整備を行う	
35	環境 まち	流域の土地利用規制 市街化区域の土地利用規制 市街化区域の農業用水路整理 リバーサイド住宅の全戸移転 水質保全 及びゴミ対策 河川流速の確保による環境保全	武庫川流域の未開発地、山林農業地域などは都市化を規制する 市街化区域の大規模再開発時に都市型水害防止措置を義務づける 農業用水路を農業利用、治水利用、景観親水利用など整理し適切な再活用を図る 住宅地として不適切な場所であり、全戸移転し渓谷の公園として整備する 水質保全目的の廃棄物不法投棄対策、流域としてのゴミ対策の実施 緩やかなV字形河川断面にすることで流量の変動に対応しながら一定量の流速を確保する	中流部三田から宝塚、自然保護地として公園化。上流三田から源流部、市街化区域を広げない 尼崎市築地地区の嵩上げ事業、松島下水処理場上部の公園化による避難場所整備等参考 六樋や大阪市の中島用水路跡歩道参考	

36	まち	水道水上流部の水質が心配	宝の塚水道局生瀬取水口の上流部道場に汚水処理場があり、また産業廃棄物最終処分場がある。水道水の水質が不安		
37	環境 まち	「危険」は避ける、つつしむ 農地の遊水地化は言うは易く行う困難			
38	環境 まち	宝塚市のまちづくり協議会 組織と活動	西谷地区のコミュニティと環境部会活動、「自然との共生」「生活者の視点」を心がけ活動		
39	環境 まち	都市部の公共用地の雨水地下貯留 農村部 転作田を活用したアジア、 アフリカ救援米の栽培			